

# ★7月重版情報★

# 『稲畑汀子俳句集成』



## 80年に及ぶ俳句人生、 その生の証しが一冊に。

## 各紙絶賛、たちまち重版！

「朝日新聞」(6/27) 朝刊・文化面、  
毎日新聞 (6/7) 夕刊・「詩歌の杜」、  
共同通信配信「追想」ほか、各紙絶賛！！

**稲畑汀子 生の証し**  
「俳句集成」5398句収録



朝日俳壇の選者を約40年間務め、今年2月に91歳で死去した俳人・稲畑汀子さんの生涯の作品を網羅した『稲畑汀子 俳句集成』(朔出版)が刊行された。既刊の7句集に未刊句集「風の庭」を加えた5398句が収録されている。最初に掲載されているのは代表作の一つ「今日何も彼もなにもかも春らしく。これを含めて1950年代の句には「派手と知りつゝもセーター赤が好き」(胸に挿す薔薇の香りはわが香り)など、みずみずしさがあふれている。80年代には「落椿とはとつぜんに華やける」などの名句が並び、円熟味加わる。「一枚の障子明りに伎芸天」。90年代は新しい表現にも挑戦で「三種の花三三が九三三が九」といった句を生んだ。句集「花」は庄巻。俳句で「花」は桜を指す大きな季語で、300句すべてが奈良・吉野の桜を詠んだものだ。「一片の誘ふ落花に山動く」未刊句集「風の庭」は、94年から2019年までの1009句。(生きてゐることが)

感謝の雪の朝。日本伝統俳句協会の岩岡中正会長は「一切を譲つ『肯定の文学』である」と評している。祖父で俳人の高浜虚子とやり取りした書簡も掲載した。編集にあたって中心的な役割を担った俳人の山田蘭子さん(88)は「子育ての句をたくさん作られて、そのやさしくてはっとする句風が、母親たちの共感と呼んだ」と話す。稲畑さんは80年に夫が死去。2男1女を育て上げた。「春灯にベビーベッドの位置決まらず」(毛糸編む手を休めず)に吾子を守る。

稲畑さんはこの一冊の完成を見ることなく逝ったが、母校には目を通し、白と青が基調の装丁も気に入っていたという。「著者あとがき」を昨年9月15日に書いた。「息を引き取るまで俳句を作っているであろうと自分では思っています。私の人生は俳句と共に生き、俳句と共に終末を迎えるでしょう」。句集「風の庭」に、こんな一句がある。生涯を語る句集や冬薔薇

【朝日新聞6/27朝刊文化面】

### ご注文はJRCへ FAX: 03-3294-2177

●JRCより全ての取次への出荷が可能です。●返品は長期にお受けします。(了解者 JRC 宮尾)

ご注文申込書	貴店名・帳合	注文数	発行 朔出版 電話・FAX 03-5926-4386
			稲畑汀子俳句集成 <b>7月下旬重版出来!</b>
			A5判 / 上製 / 576頁 / 定価: 12000円(本体10909円+税10%)
		冊	ISBN978-4-908978-77-7 C0092